



おでだま

OTEDAMA CLUB IN JAPAN

NO.

5

1996 Spring

◆シリーズ1 お手玉あれこれ◆

⑤石のお手玉(兵庫県養父郡大屋町、マレーシア)

現存する世界で最も古いお手玉は、羊の骨でできていて紀元前千年のもの。黒海周辺の遊牧民の遺跡から見つかっている。この羊の骨と同じ遊び方が、石でも行われた。世界各地にその記録が残っている。

日本の記録によると、いちばん古いものは石のお手玉で、「石なご」「石なとり」と書かれている。1600年代のもの。また、お手玉を「石なんご」「石なぐー」と呼ぶ地方があることも、それを物語っている。

ここに紹介したものは、兵庫県養父郡大屋町の「石なんご」(左)と、マレーシアのお手玉。「石なんご」は、現在、日本では大屋町にのみ残っている貴重な遊び。

日本のお手玉の会の調査で、ハワイにも、「キモ」と呼ばれる石のお手玉遊びが、昔は存在したことがわかっている。



- 23都道府県から七〇〇人が参加
老若男女が技を競いながら笑顔で交流
- 全国お手玉遊び大会に各地から祝辞やメッセージが届く
- 第四回全国お手玉遊び大会特集
- 顧問の藤本浩之輔教授が逝く
- 日本のお手玉の会のあゆみ
- お手玉メッセージ
- お手玉の輪・人の和の拡大に努める
- ホノルルでお手玉遊び大会の開催を企画
- 第五回全国お手玉遊び大会は九月二三日に決まる

【特集】

◆シリーズ2 お手玉文化

出番の終わった古裂にいのちを

布とびあ主宰

山口 信子

出番の終わった古裂にいのちを

安らぎと勇気をあたえてくれる布とびあ



山口信子さん

*伝統に培われた手仕事

一片の布が生み出す感動に魅せられて、布と針で遊ぶようになった。どれだけの時間が過ぎたのでしょうか。小さな布との出会いがこんなに深く、そして長い付き合いに発展するとは、夢にも思いませんでした。長い伝統の中で培われた手仕事と、新鮮さを求め、走り続けて、たくさんの事を学び体験してきました。

女性なら一昔前までは、針仕事は大切な女のたしなみでした。必然的に生まれた生活の知恵とここに感動しています。ひと針、一針とほしい灯のもとで針を持った祖母や母を思い出して、今作品づくりをしています。

子供の頃から手仕事が好き

奈良県桜井市 山口 信子

きでした。若い頃は保母として、幼なじみ相手の仕事をしていました。結婚してその仕事を手離さなければならなくなった時、家庭で出来る手仕事、私を慰めるようになりました。子供達が小さい頃は実用品ばかりを作っていました。

私の作品は、主婦として物を大切に作る心から生まれます。布をかざすと、向こう側が透けて見える程使い込まれた古裂から、信じ難いほどの愛しい作品が生まれます。出番の終わった古裂がいのちのこめられた作品となって再登場します。

国際図書館や各大学での資料探しから始まりました。古書のページから生まれた作品、新しく仲間入りしたオリジナル作品が今仲良く勢揃いして我家に並んでいます。その数は数えられない程です。一体いくつあるのでしょうか。用の美を備えたベッドカバー、

用の美を備えたベッドカバー、

バック、タペストリー、おび、そして温かさとやさしさをさそう箱縫細工の山に埋まっています。それぞれに作品には懐かしさと優しさと、作った時の思い出がたくさん詰まっています。これからは、きっと励まし、慰め、勇気づけてくれることでしょう。

手仕事好きの仲間が集まりスタートした教室も大世帯になりました。大阪三越、東京フランスと回を重ねた作品展、類書少ない縮細細工の本「小裂あそび」の出版がご縁で愛媛県新居浜市のお手玉遊び大会に作品展示の依頼を受けました。お細工物のルーツはお手玉だと思っておりましたので参加させていただきました。

＊うれしいお手玉の復活
日本各地のお手玉と、外国のお手玉、共通する遊びが今復活していました。忘れかけていく手遊びが広がっていくことを、大変嬉しく思った

ことを、大変嬉しく思った

旅でした。また、私の小さいころの思い出と重なって楽しいひとときでした。

つねづね自分のつくったお手玉で遊べたら楽しいのに、と思っておりました。今の私には残念ながら時間がございませぬ。もう少し年を重ねたら、生まれ育った万葉の里で、地域の人達と、季節感ある作品を展示して、お茶を飲み、創って遊ぶ、そんな交流の場、くつろげる場所ができれば



と大きな夢を持っています。

郷土料理、民話、折り紙等と同じく、次の世代、娘に残しておきたい、どこか私の手仕事にも通じることがいっぱいありました。私の仲間の中にも六十代、七十代の方がたくさんいらっしゃいます。

物を大切に、人を大切に、ボケ防止にと、せつせと作品づくりをしていらっしゃいます。その作品から周囲に温かい波紋がひろがり、それを見る人も頂戴する方も心なむ、

ひとときをもちたれます。自宅での昨年の雛まつりが大好評でございました。リクエストにおこたえして今年も二月二十九日ー三月二日に、童心にかえって遊ぼうと計画しています。

小裂を通じて知り合った心、多くの友との交流、どんな時にも安らぎと勇気を与えてくれる布、手仕事は胸をときめかす小さな女の文化遺産なのでしょう。布のいのちをつなぎとめ、静かな心でまわりをあたたく包んでくれる作品をつくりたいものです。

布を見てイメージがふつと湧き、色や柄に教えられる。いざ創ろうと座っても、なかなかふさわしい構図が浮かばず、結構苦勞の連続です。

あれこれ布を眺め対話を繰り返していくうちに、びつたしの模様に出会い、あどけない子供のしぐさや姿に心が和み幼いころを思い出しながら、童心にかえられる日々でもあります。

少しの布、わずかな場所でも出来る手仕事は、限りなくロマンの世界へと私をさそってくれます。今は、なんでもカールチャー教室で学べる時代になりました。夜なべ仕事の母のそばで針を持つことを覚え、

23都道府県から七〇〇〇人が参加

老若男女が技を競いながら笑顔で交流

第四回全国お手玉遊び大会は、同実行委員会と日本のお手玉の会の主催で、平成七年一月一二日、愛媛県新居浜市のリーガロイヤルホテル新居浜で行われた。大会には、二三都道府県から団体戦七六チーム（一チーム五人）と、個人戦に約三〇〇〇人が参加。ギヤラリーを含めると延べ約六千人の人手となった。



童心にかえり真剣な表情で

各地からメッセージが

大会には、伊賀愛媛県知事の祝辞のほか、吉村長野県知事、早川倉吉市長、木村近江町長（滋賀県）、さとう宗幸さんなど、国内やアメリカからたくさんのお手玉が届いた。また、競技に先立ち、宮中雲子副会長（詩人）の亡き母を詠った詩の朗読と、新居浜少年少女合唱団による合唱で、「さんなんを拾う母」が披露され、参加者を魅了した。

競技は、団体戦と個人戦が、それぞれ一般の部、小学生の部に分けて行われた。どの競技も、真剣な中に笑顔と爆笑、歓声が沸き起こり、選手と観衆が一体になって、お手玉遊びを楽しみながら、交流を深めた。

アトラクションとして、大西社中による祝い太鼓の演奏や、藤音琴修会みかんアンサンブルによる大正琴の演奏、新居浜少年少女合唱団のお手玉歌の合唱などがあった。また、ロビーでは、「布とびあ

で知られる山口信子さん（奈良県）の小裂れ遊びの作品の展示、各方面からいただいたメッセージの展示、全国各地のお手玉に関する資料の展示もあった。

物産展示コーナーでは、創作お手玉やお手玉人形など、各種のお手玉グッズのほか、今回初めて、新居浜市観光協会などの計らいで発行された、お手玉遊びの図柄を描いた官製はがきの年賀状も販売され人気を呼んだ。

とくに今大会では、県外からの参加者は白いリボンをつけ、開会式で都道府県別に紹介された。会場のあちこちで、遠来の選手に声を掛け、なごやかな話の輪かでき、お手玉談義に花が咲き、今後の交流と、再会の約束が交わされていた。

平均年齢八〇歳の勝利

一方、競技の方は、団体戦、個人戦とも、熱気にあふれ、歓声と爆笑の渦の中で進められた。なかでも、団体戦の三

位決定戦は、見応えがあった。

対戦は、青年男女の職場チームと平均年齢八〇歳の老人ホームチーム。技量伯仲の大接戦が展開された。会場は一つになって声援を送り、選手の技に注目した。結果は僅差で老人チームの勝利となった。会場から、老人チームの「版流苑A」に、会場一杯の惜しみない声援と拍手が贈られ、しばしどよめきが続いた。破れた若者チームも、老人チームの一人ひとりと握手をしながら健闘を讃える、美しい光景が見られた。



団体戦、個人戦の上位入賞者は次のとおり。

◇団体

▽一般 琴原舞会B（松山市） 同C（同） 版流苑A（喜多郡佐田町）
▽小学生 いずみ子供会（高知市） NMD子供グループ（新居浜市）
おちやらかスツコケ（同）

◇個人

▽両手四個 松田三郎（伊予郡松前町） 青木カホコ（新居浜市）
谷ノ内キヌエ（伊予市）

▽片手三個 藤田三郎（新居浜市） 砂田ヒロ子（松山市）
藤田三郎（新居浜市） 藤田三郎（同）

▽両手三個 加藤喜佐子（新居浜市） 本藤民子（同） 山下美美子（同）
谷田和子（喜多郡佐田町） 戸田淳子（新居浜市）

▽片手二個 宇都宮安子（松山市）▽小学生 山下将一朗（八幡浜市）
片岡多美子（高知市） 高橋さやか（新居浜市）

◇ジャグリング 松田三郎（伊予郡松前町） 田中達一（滋賀県長浜市）
榎田環（鳥取県倉吉市）

台所仕事の手伝いの中から自然と教わったものでした。
＊綿毛のような広がり

繰り返される自然の営みまでが壊される昨今、あたたかいふれ合いの中で、育ち伝えられてきたお手玉遊びの輪が広がって、培われていくと、たんの事が日本全国、世界へと、たんぼの綿毛のように広がってほしい。

会がますます発展することを祈りつつ、私もまた、便利さ、豊かさの中で忘れられていく手仕事を、誰にでも出来る手芸として仲間と続けてまいります。何くれとなく応援してくれる家族、部屋が散らかっても黙って見守ってくれる主人に、心から感謝したいと思います。どうぞ、これからも交流させて下さいませ。

布とびあ主宰

全国お手玉遊び大会に各地から祝辞やメッセージが届く

(順不同・敬称略)

祝辞

本日第4回「全国お手玉遊び大会」が盛大に開催されますことを大変嬉しく存じますとともに、全国各地から遠路御来県いただきました皆様方を心から歓迎申し上げます。

また地元の皆様方には、平素から県政の推進に格別の御理解と御協力を賜っておりますことを、この際をお借りいたしまして厚くお礼申し上げます。

御案内のとおり、近年人々の生活意識の変化や文化志向の高まりの中で、ゆとりや潤い余暇といったものが強く求められるようになってきておりますが、ふるさとづくりの面においても、文化や芸術、歴史、自然などの地域資源を活用しながら、住民の創意工夫のもとに心の豊かさや生活のゆとりを実感できるような活動を展開していくことが、重要な課題となっております。

このような中で、新居浜市民の皆様が日本の伝承文化であるお手玉の復活を目指して始められました「全国お手玉遊び大会」も、今年で4周年を迎えるわけですが、これまで全国各地から多数の皆様方の御参加のもとに年々充実発展しておられますことは誠に意義深く心から御同慶に存じております。

これもひとえに、大会を開催されます日本のお手玉の会並びに実行委員会の方々をはじめ、市民の皆様方の御熱意と御努力の賜でありまして、深く敬意を表す次第であります。

本県におきましても「生活優先」「文化重視」を基本理念に生活文化県政を推進する中で、今後とも地域の自主的な主体的なふるさとづくりを、積極的に支援して参りたいと考えております。

お手玉は誰でもいつでもどこでもできる素晴らしい遊びとして、親から子へ子から孫へと脈々と伝えられてきた身近な文化であり、そこには世代を超えた語らいや交流また手作りの暖かさや肌触りの温もりがあります。

どうかこの大会を契機として、こうしたお手玉のよさが見直されるとともにお手玉遊びを通じた交流の輪が更に大きく広がって、国内はもとより世界中の人々とのふれあいや文化交流の架け橋として、より一層発展して参りますことを念願いたしております。

なお、遠路ご来県いただきました皆様には、折角の機会でございますので、お時間の許します限り深まりゆく秋の伊予路の名所旧跡を御散策いただき、愛媛の印象を深めていただければ幸いです。

終わりに本大会の御成功と皆様方のますますの御健勝御活躍を、心から祈念申し上げます。お祝いの言葉といたします。

平成7年11月12日

愛媛県知事 伊賀貞吉

山陰の名峰大山も初冠雪が見られ、いよいよ冬の到来です。幼い頃道中宿屋ばたや炬燵にあたりながら昔ばなしを聞いたり、懐とりをしたりお手玉をして遊んだり想えば遠い昔になった今日です。

現代の子供達の遊びの主流はどうかやたらテレビゲームに変わったのでしょうか。何か子供の背中を見るのが家族の日常になってしまっているような気がします。

人の喜怒哀楽はその人の表情であるいは眼を見て判るとしたものですが妙な世の中になったものです。

このような時代にお手玉の会を結成され作り作って遊ぶことの価値を強調されるのは大変意義深いことと存じます。

欲しい物は与えられ金さえあればどんな道具でも手に入る時代に在って自ら遊び道具を作りそれで遊ぶ喜びを前易に体験出来るお手玉のようなものが今最も家族にとって身近な友達にとても大切なものに復権する予感ですが福出環境によって、とっとりお手玉の会が発足致しました。

お手玉復権の最も相応しい人を得、舞台が整えられたものと思えます。

全国関係者の皆様方も力を合わせて一層すばらしい御活躍をなさいます様心から祈念し大会へのお祝いと致します。

平成七年十一月吉日

倉吉市長 早川芳忠

いつか行ってみたい、見てみたい、日本の心をいつまでも大切に存続させてください。

今年も無理だった。

さとう 宗幸 仙台にて

第4回「全国お手玉遊び大会」へのメッセージ

民俗学者の柳田国男は、過去を学ぶことが未来を予見する道筋であることを民俗学的手法によって提示した先達です。

彼は日本民謡研究の道を開く先駆的な業績として『民謡定書』『民謡の今と昔』などの芸能史論を撰述していますが、この中で民謡の種目分類をおこない、「童歌」に分類された中に、「お手玉歌」は「手毬歌」と同類の「文句の変化が多い」民謡と分類しています。

さらに子守歌と手毬歌の関係について「日本の童謡は、人間最初の要求から発生したとするのが私達の童謡に対する考えであり、兼あってそれが民謡の基礎になったと考えるのである。子守歌を、子供自身最初に転用したのが、すなわち手毬歌である」(『民謡雑記』)

「お手玉歌」の世界も同じでしょうか。

さらなる会のご発展を……。

平成7年11月7日

飯田柳田国男研究会
運営委員長 高橋寛治

混み合った青空の下、吹く風にそよぐすすきの穂に戯れる赤とんぼが深まりゆく秋を伝えてくれます。

この好季節を背景に全国各地から合い集い開催されます「第4回全国お手玉遊び大会」を心よりお祝い申し上げます。

おひとつ、おふたつ……と流れる歌は近年のスピード化した日々の暮らしで忘れがちなゆとりの心を私達に思い出させてくれます。

暖かい日差しが降りそ、く線顔で遊びながら老若男女を問わず親しめるお手玉遊びは、日本を代表する文化の一つであり日本の心でもあると言えるでしょう。

本大会はその魅力にとりつかれた人々にすばらしい舞台が提供され、町からも出場させていただきました。

町では雪の降る冬季でも室内でできる唯一のイベントとして、「近江町お手玉遊び大会」を全国大会と同じ年から開催してきました。まだまだ未熟ですが、昨年度の大会の上位チームが全国大会参加権を得ての白場です。この輪が大きくなり将来は全国大会が花開く時で開業されることを夢見しています。

日本の心であるお手玉遊びが未永く受け継がれていくことへの努力をお約束申し上げ、最後に本大会のご盛会をご祈念申し上げます。お祝いのことばといたします。

平成7年11月吉日

近江町長 木村 彰

祝電

衆議院議員 小野 晋也
愛媛県議会議員 小野 義章
新居浜市議会議員 高橋 英雄
福島県郡山市 太賀 孝子
アメリカ・オハイオ州 武田 順哉

第四回全国お手玉遊び大会おめでとうございませう。私は東京から出場して第一回のチャンピオンになりました小泉珠子でございます。

新居浜の皆さんとお会いするのを楽しみに致しておりますが、今ベトナムに居ります。

際音のある子供達の学校を巡っておもちゃを届けています。

ある学校の教室に「ホーチミン市一毛糸であんだボール(小さな)三個があったので、チャンピオンの腕を振るいましたら大喝采が子供達は大よろこびでまねをしていましたよ。

ベトナムでのお手玉は大活躍。

お手玉パンジー。おめでとございます。

世田谷区字余根三ー一四一二八 芸名 おてたまこ
世田谷区議会議員 小泉 珠子

全国お手玉遊び大会のご盛会を心からお祝い申し上げます。参加された皆様方のあたたかな心の交流とご活躍を二期待申し上げます。本日の大会が実りあるものとなり、日本の伝統的な文化ともいえるお手玉が、さらに広く普及するきっかけとなることをご祈念申し上げます。

長野県知事 吉村 午良

<日本のお手玉の会のあゆみ>

〔平成7年〕

- 7月 5日 第6回幹事会開催
19日 国際ソロプチミスト新居浜みなみ認証式にブース
20日 情報誌「おてだま」4号発行
20日 英会話教室 (以後省略 月2回)
20日 さとう宗幸さんと面談 (松山市)
28日 山陽放送「ボイス21」テレビ取材 (岡山県)
31日 第7回幹事会開催
- 8月 8日 大生院公民館にてお手玉教室
9日 合同役員会 (新居浜アムニティ倶楽部)
18日 シンポジウム「ふるさとづくりと生涯学習」
25日 第8回幹事会開催
26日 慈恵小学校「夕涼み会」にてデモンストレーション
27日 船木公民館にてお手玉教室
28日 長田公民館にてお手玉教室 (鶴い方と遊び方)
- 9月 2日 「ボンパフェスタ」ブース設置 (販売と教室)、シンポジウムにパネラーとして参加
5日 第1回全国お手玉遊び大会実行委員会開催
9日 新居浜少年少女合唱団員にお手玉講習
9日 普通寺児童センター(5名)の方にお手玉講習 (香川県)
13日 人形お手玉講習 (外国の方)
14日 西長野老人クラブ(14名)の方にお手玉講習 (周桑部)
18日 実行委員会部長会開催
20日 第9回幹事会開催
27日 お手玉の日「お手玉遊びを楽しむ、お手玉を語る会」
川東老人福祉センターにてお手玉教室 (60名)
「NHKラジオジャパン」を収録
同日衛星放送にて放映
- 10月 12日 関前ともしげ会の方にお手玉講習 (40名) (関前村)
17日 お手玉講習 (広島県)
20日 実行委員会幹部会開催
23日 山陽放送ラジオ 生放送参加
28日 三瓶町40周年記念行事「お手玉トーナメント大会」参加
29日 *
- 11月 6日 第2回実行委員会開催
12日 『第4回全国お手玉遊び大会開催』
13日 新居浜テレビネットワーク『まいタウン』にて放映 (~19日)
- 12月 18日 愛媛朝日テレビ「ふれあい愛媛」にて放映
1日 角野保育園にてお手玉教室 (遊び方)
2日 テレビ愛媛「ふるさと再発見」にて放映
9日 「生き生き幸せフェスティバル」にてお手玉教室
24日 餅つき大会、大掃除
25日 実行委員会幹部会、お手玉の会幹事会開催
(*省略 愛媛県立西高等学校クラブ授業 週1回)

第4回全国お手玉遊び大会の開催によせて

長野県飯田市高市町5丁目5-1
飯田文化会館 館長 小林敏弘

第4回全国お手玉遊び大会の開催を心よりお祝い申し上げます。
戦後しばらくまでは親から子へ、姉から妹へ、おばあちゃんから孫へと伝えられていたお手玉、子どもたちの姿が広場や公園から消えると同時に、こうした伝統的な遊びが失われていきました。

「一番はじめは、一の宮、……」で始まるお手玉唄を聞かなくなって何年過ぎたでしょうか。そんなお手玉遊びが今全国大会になっていることは、とてもほほえましく、また伝統文化を今日に活かす素晴らしい行事だと思います。

伝統人形浄瑠璃をはじめ伝統芸能の宝庫と呼ばれております、わが長野県飯田市におきましては、毎年8月に人形浄瑠璃の大会、「人形浄瑠璃カーニバル飯田」を開催いたしております。本年度で17年を迎えました。このフェスティバルも当初の参加者は60劇団、381人程度でしたが、今日では、全国からそして海外から合計300劇団、1900人の参加をいただき、世界最大の人形浄瑠璃祭典となっております。

最初は小さな歩でも、継続した開催と市民参加によって、国際的にも高い評価をいただけるカーニバルになりました。

今日では「人形浄瑠璃のまち、飯田」と呼ばれ、人形浄瑠璃を通じた国際交流も盛んになってまいりました。

「人形浄瑠璃カーニバル飯田」期間中にはカーニバルステーションというイベント広場で、飯田おしなごの会の篠田啓子さんが中心になってお手玉遊びの催しが毎年行われております。誰でもすぐに参加出来るお手玉遊びは人形浄瑠璃の間でも大変好評です。また、手や指のリズミカルな動きが要求される人形浄瑠璃ではお手玉は手先の器用さとリズム感を養う訓練の道具にもなっております。

今、地域は文化の時代です。そして心の時代でもあります。遠い昔から子どもたちの歌声と共に伝承されてまいりましたお手玉、これは単に昔をなつかしむ遊びではなく、日本人の心を伝える文化です。そしてまたお手玉文化は古くから世界中に広く分布しています。今日では、地域はすべての人にとって小さくなりました。世界がグローバルになっていきました。それぞれの民族の言語や習慣は違ってもお手玉は共通の文化であり言葉です。瀬戸内海の新居浜市と世界の海がお手玉で結ばれる、それは大きな夢ではありますが、その気になりさえすればすぐにも実現できる目の前の夢です。

今日の大会がいままで以上に盛会であるばかりでなく、地域に根ざす文化として定着し、世界に向かって誇れるものへと発展していけることを願ってやみません。最後になりましたが、今回の大会開催に向けてご尽力されて来られました多くのスタッフの皆様、ご支援をされております新居浜市の皆様、市民の皆様へ深い敬意を表しまして、お祝いのメッセージといたします。
1995年11月6日



ありし日の藤本教授

顧問の藤本浩之輔教授が逝く

「意志の「子ども文化」の継承・発展を

日本のお手玉の会の顧問として、会の創立当初から、学術的な面のご指導をいただいた、京都大学(教育人間学)の藤本浩之輔教授が、平成七年十月二十九日、胃がんのため、京都市の病院で逝去されました。享年六二歳でした。

藤本顧問には、長年にわたって、子ども遊びを研究され、日本子ども社会学会の設立にご尽力されました。子どもの遊びの実践的研究の第一人者で、著書にも、「子どもの遊び空間」「草花あそび事典」「野外あそび事典」などがあります。

また、お手玉遊びに関しても、世界各地を踏破され、史実や実存する遊びを克明に調査して、多くの論文も発表されています。中でも、兵庫県養父郡大屋町に伝わる、「石なんご」を発掘され、日本に現存する唯一の石のお手玉遊

びとして、世に紹介されたことは、有名な話です。その大屋町と日本のお手玉の会とを、藤本顧問のお骨折りにより、平成六年十月お引き合わせいただいたことは、誠にありがたいことでありました。この関係を今後とも発展させていきたいと思っております。

第三回全国お手玉遊び大会には、藤本顧問はご家族でご参加くださり、前夜祭で「お手玉のロマン」その歴史性と国際性」と題したご講演をいただきました。大会当日も、最後までご観戦いただき、第四回大会には「大和美しチーム」として、ご家族での参加を約束してくださいました。それが、実現しなかったことは、誠に残念でなりません。

藤本顧問を失ったいま、会の将来を考えると、大きな空洞ができた心境です。

しかし、この悲しみを乗り越えて、お手玉遊びを全国に、世界に広める努力を続けていくことが、藤本顧問へのご恩返しになると考えます。

これからも、子ども文化の継承・発展と、お手玉の普及活動に尽力することを約束するとともに、ご冥福をお祈りいたします。

いつでも、どこでも、誰とでも
■お手玉ネットワーク
 (入会費前のご案内)

会員募集中

（平成18年度）

月会費 1,000円～12,000円まで（各別）

※年会費は個人会費3,000円、法人会費10,000円です。割引（赤色）の加入用紙をご使用ください。

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1 日本のお手玉の会 事務局

（記入例）

氏名 鈴木 太郎

住所 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1

〒890-0001 高知市東山1-1-1



1日お手玉教室

作り方・遊び方・展示
 毎月第1水曜日/午前10時～午後4時まで開放
 お気軽にどうぞいらして下さい。(ハウスにて)



月曜日～金曜日 ハウスは午前10時に開館。
 午後5時に閉館します。
 ◆アムニティハウス；新居浜市庄内町1-13-14
 ☎・FAX (0897) 36-0600



◆インターネット（ベルの会のホームページ）
 アクセス番号 http://WWW.gfi-net.bekko.com.jp/BBJ/
 アクセス番号 http://WWW.shikoku.or.jp/bell/（発行中）
 まずは見て下さい。＝ 私たちの会も準備中です。＝

あなたの町にも **支部募集しています。**
 会員10名以上でつくれます。

支部名	【第2号】 三重県お手玉すずめ会
代表者	阿竹 道央
住所	〒516 度会郡御園村高向837-2
支部名	【第3号】 高知旭支部
代表者	廣松ひとし
住所	〒780 高知市塚ノ原43-3
支部名	【第4号】 ひろしまお手玉の会
代表者	森下 恵子
住所	〒739-17 広島市安佐北区亀崎1-20-7
支部名	【第5号】 おじゃみジャン福井
代表者	塚原セツ子
住所	〒915 福井県武生市池ノ上町64-16



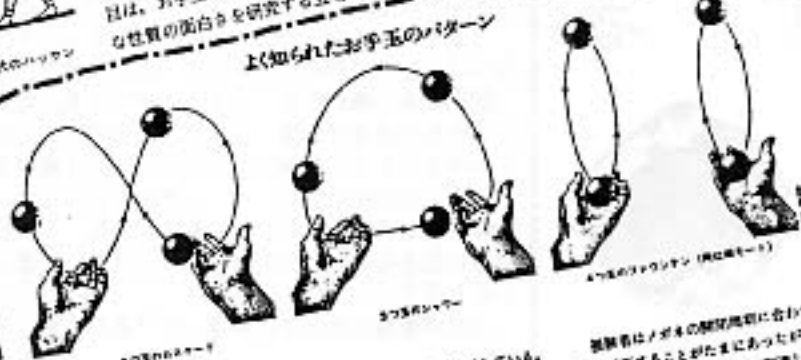
最古のお手玉 1954年創立 1984年から1985年まで最古の近代エレクトロニック式玉の時代はバウンス玉の時代に、お手玉で遊んでいるユウゴのイメージが描かれている。

体重59kgの男が70kgの重さにしかならねない竹たて機を履いて、砲弾を飛ばさなければならないとする。1kgの砲弾3個を1回で飛ばすにはどうしたらよいだろうか？ 砲弾をお手玉にする、機に作用する力を抑えるので、この例は現実的なもの、お手玉は趣味や

お手玉の数学

1つ目は、バウンス玉の科学として研究しようとする立場である。お手玉ロボットで実験制御技術を開発したり検証しようとする立場。3つ目は、お手玉のパターンをもつ数学的な性質の面白さを研究する立場である。

お手玉の科学



これは大きく分類される。3つ玉のお手玉ではさまざまなバリエーションを考案し始めるのに対して、3つ玉ではほとんどの玉が投げられることを意味している。1994年にはアムステルダムにあるワグeningen大学のヤン・ファン・ドール (Jan A. van Doorn) は、3つ玉の科学として研究している。このとき、ボールが最高点に到達した

日経サイエンス'96.1月号
 「お手玉の科学」より



お手玉アンケートにご協力ありがとうございました。 (平成7年11月12日実施)

質問	回答 (104枚)			
1. 年齢	15歳以下 (19%)	30歳以下 (13%)	31~60 (32%)	61歳以上 (36%)
2. 性別	女性 (83%) 男性 (17%)			
3. 興味	大変ある (44%) まあまあ (37%) どちらでもない (12%) あまりない (5%) まったくない (2%)			
4. 全国お手玉遊び大会について				
(1) へで参加	ア. 観客 (27%)	イ. 選手 (64%)	ウ. ボランティア (9%)	
(2) 参加して	ア. 楽しい (98%) イ. 楽しくない (2%)			
(3) 参加料	ア. 必要 (32%) イ. 必要でない (35%) ウ. 募金カンパ (42%)			
	300円 (44%)	500円 (41%)	700円 (4%)	1000円 (11%)

今大会の特徴は、年齢層にも広がり見え、各層のバランスも平均化してきたと思われます。同時に大会の精神のために、参加料についても意識調査をしました。「半数以上の方がなんらかの形で特徴を」という意見。他にも会員同士の交流会をもってほしいとか、全員でお手玉歌を歌いながらの「おてだまウォーミングアップ」とかいろいろ企画の提案がありました。今後の運営に反映させていただきたいと思っております。

第五回

全国お手玉遊び大会開催日程決まる

日時 平成八年九月二三日(月) 秋分の日
場所 リーガロイヤルホテル新居浜

みなさんのご参加をお待ちしています。

◇ホノルルでお手玉遊び大会の開催を企画◇

ハワイ州政府の公式行事として

日本のお手玉の会では、国際交流の一貫として2年前から、ハワイ州政府の公認行事である「まつり イン ハワイ」(まつり イン ハワイ実行委員会主催)に参加しています。過去2回の参加で、ハワイの人々や日系の方々、世界各国からの観光客、日本からの参加者など、多くの方々とお手玉を通しての交流を深めてきました。

その実績が認められ、今年の第17回「まつり イン ハワイ」では、ハワイ州政府の公認行事として、「お手玉遊び大会」が開催されることになりました。大会は、日本のお手玉の会の企画運営と大会実行委員会の協力により、ホノルルで行われます。計画では、日本からの参加者とハワイチーム、それぞれ100人を予定しています。

6月に行われる今年の「まつり イン ハワイ」は、別掲の内容で進められます。日本からの参加者については、日本のお手玉の会はもとより、近畿日本ツーリスト、産経新聞社でも、募集しています。会員の皆さんやご家族、知人など多数のご参加をお願いします。ハワイでたくさんの人と触れあい、観光を楽しみ、すばらしい思い出を作りませんか。

◎お手玉遊びハワイ大会の実施要領◎

1. 旅行期間 平成8年6月20日から6月25日(6日間)
2. 旅行代金 1人当たり 148,000円
3. 行事予定 (1)まつりパレードに参加(6月22日)
(2)ハワイお手玉遊び大会(6月23日)

なお、詳細は同封の「案内」をご覧ください。

お手玉の輪・人の和の拡大に努める

心と手の「ぬくもり」を全国に、世界に

日本のお手玉の会は、4度目の新春を迎えました。会員は全国44都道府県に450名、支部も5県に5支部と、名実ともに全国的な組織となってまいりました。これもひとえに、全国のお手玉を愛する皆様の暖かいご支援と、全国大会の開催や日常の普及活動に献身的にご協力をいただいている企業やボランティアの方々のおかげで、深く感謝しています。

全国お手玉遊び大会は、回を追ってスケールが大きくなり、昨年の第4回大会には23都道府県からご参加をいただきました。また、参加チームの知事市町村長や、各種支援団体から暖かいメッセージをいただきました。ほんとうにありがたいことです。

「まつり イン ハワイ」への参加も、今年で3回目となりますが、過去2回の実績のおかげで、今年はハワイ州政府公認のお手玉遊び大会「ハワイオープン」の企画が進められています。

国内から、海外から、お手玉遊びの普及活動が注目されるようになってきました。うれしことですが、それだけ責任も重くなったきたということが出来ます。これからも、「三点セットのドサ回り」、いわゆる「お手玉の展示」「作り方教室」「遊び方教室」の日常活動を精力的に続けるとともに、会員および支部の拡大を図りたいと考えております。

こうした活動をとおして、お手玉の輪・人の和を広めるとともに、心と手の「ぬくもり」を全国に、世界に伝えながら、交流を深めていきたいと思っております。会員の皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

会員の皆様にとって、幸多い年でありますことを心から祈っております。

日本のお手玉の会事務局一同



発行・編集

日本のお手玉の会 会報編集委員会

〒792 愛媛県新居浜市庄内町1-13-14 TEL・FAX/0897-36-0600